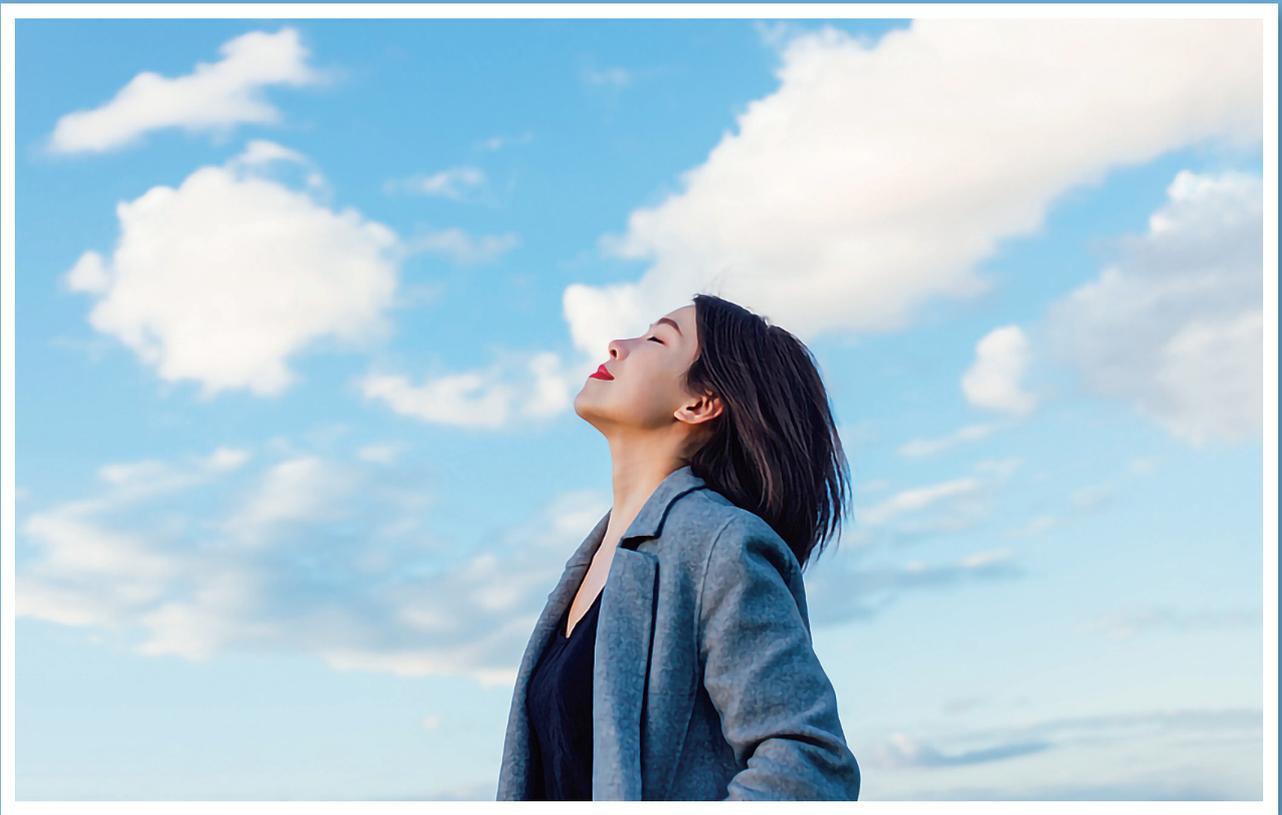


2022年度

# 女性リーダー支援基金 ～ 一粒の麦 ～

報告書 2022年11月26日



主催：公益財団法人パブリックリソース財団

# はじめに

はじめまして、パブリックリソース財団、女性リーダー支援基金事務局です。

女性の地位向上を求める動きは、1986年男女雇用機会均等法施行以降、男女の賃金格差、非正規雇用問題、ひとり親家庭の困窮、子育て介護問題、選択的夫婦別姓等のジェンダー課題に対して、声を上げ続けた多くの世代の挑戦と忍耐の上に、今日があります。

さらに、2016年ハッシュタグ#保育園落ちたの私だ、2017年頃から全世界に広がった#MeToo運動、2021年の東京五輪・パラリンピック組織委員会の森会長発言と「#わきまえない女」の広がり。

今女性の地位向上を求める活動は大きなうねりをもって広がり始めています。

当基金は2021年に意思決定過程にかかわる女性を増やすことを目的にスタートしました。第一回公募を実施し、137名のご応募から選ばれた5名の次世代女性リーダーを支援しました。二回目の公募となる2022年度は、99名のご応募をいただき、9名を支援することとなりました。

本年度の大きな特徴は、「政治、スポーツ、芸能、医療、地域活性、農業、IT…」と、幅広い分野から応募があったことです。社会のあらゆる分野でジェンダーギャップがあること、その現状に対し女性たちがそれぞれの生きる現場で、社会を変えようと動き出したことに、私たちは大きな希望を感じました。

また、本基金では、次世代のリーダーを育成・相互理解を深めるために、各分野で活躍されている講師をお招きして開催している「勉強会」を実施し、リーダーとしての多くの学びを得てきました。

- ・現場・研究・調査、どれに偏るのではなく、行き来しながら知見を広げることの大切さ。
- ・対立ではなく「共感と対話」こそが、相手の心の扉を開くことができる。
- ・諦めることなく焦らず、一步一步前進することでしか、目的を叶えることはできない…

私たちは、人口が減少し、社会保障制度が変革を余儀なくされる今日、日本社会の未来を切り開くには、ジェンダー平等の実現が必要不可欠だと確信しています。ジェンダー平等は、日本社会のダイバーシティ&インクルージョンを実現する第一歩です。女性の社会的地位向上を目指して活動している女性たちを、これからも支援してまいります。

女性リーダー支援基金 事務局一同

## <目次>

- 1 「女性リーダー支援基金 ～一粒の麦～」開催概要
- 2 基金の意義、選考のポイントについて (審査委員長 上野千鶴子氏)
- 3 2022年度 応募状況・選考過程・審査結果
- 4 2021年度 支援対象者による活動報告
- 5 基金の活動報告
- 6 基金アンバサダーのご紹介
- 7 基金設立者石川清子様からのメッセージ
- 8 2022年度 支援対象者のご紹介

# 1 「女性リーダー支援基金 ～一粒の麦～」 開催概要

## 1 設立趣旨と目的

女性の社会的地位向上に自ら一石を投じたい

基金創設者石川清子さんの思いから「女性リーダー支援基金 ～一粒の麦～」は生まれました。

「女性リーダー支援基金～一粒の麦～」は、石川清子さんの発案により、日本における意思決定過程への女性の一層の参画を通じ、女性の社会的地位の向上を図ることをめざして、設立されました。

男女格差を国別に比較する「ジェンダーギャップ指数2022」では、日本は146か国中116位、主要7か国(G7)で引き続き最下位となり、政治参画や経済的機会などにおける男女差が明らかとなっています。構造化された男女格差を是正するためには、意思決定に参画する女性リーダーを増やすことが急務であるという石川さんの思いから、本基金では、女性リーダーシップ開発やビジョンの実現を支援することを目的に、次世代女性リーダーの創生に貢献していきます。初年度(2021年度)は、137名のご応募より審査委員会による厳正なる審査の結果、5名の支援対象者を決定し、1人100万円の活動奨励金を支給しました。2022年度は第2回目になります。

※本基金の副題「～一粒の麦～」とは、一粒の麦は地に落ちることによって無数の実を結ぶという聖書の言葉から、女性の社会的地位向上に自ら一石を投じたいという石川さんの思いを表しています。

## 2 公募について

女性リーダーとして今後の活躍が期待される個人に対し、自薦による公募を実施。国政・地方を問わず政治家をめざすための講座・研修を受講した経験のある方、大学・大学院等で社会課題について学んでいる方、社会活動(NPO・NGO・オンラインアクティビズム等)を実践されている方等を対象に、以下の分野で次世代リーダーを志す女性を支援。

### 支援対象分野

- 1 政治家志望者
- 2 社会活動(NPO・NGO・オンラインアクティビズム等)の実践者
- 3 社会起業家志望者
- 4 女性のためのアクションリサーチの企画・実践者

※①:既に公職の議員や首長となっている場合は除く ※②～④:既に活動している場合も含む

### 選考

ウェブ上の応募申請フォームより提出された応募内容等をもとに、一次審査(書類選考)、二次審査(オンライン面談)にて選考。外部に審査委員会を設置して厳正な審査を実施。

#### <選考基準>

日本における意思決定過程への女性の一層の参画を通じ、女性の社会的地位の向上を図ることをめざして、女性リーダーとなる志や資質を重視しながら、次の基準で審査を行なった。

- 1 女性の社会的地位向上に貢献する明確な意志とビジョン
- 2 将来のリーダーとしてのビジョンと計画
- 3 現在の社会や生活の中から問題を見出す洞察力と解決策を構築する能力
- 4 現状を打破し、改善するイノベティブな発想力と行動力
- 5 自ら動く実行力、継続する計画性
- 6 これまでの経験と実績

### 支援内容

1年間に5名程度、3年間で計15～20名を選定し、**1人あたり100万円の活動奨励金を支給**。奨励金受給後3年間、活動奨励金を活用し行った活動の状況や成果に関して報告書を提出し、毎年1回開催する「交流ミーティング」に参加するものとした。

### 公募スケジュール

- ▶ 7月20日(水)～8月22日(月)  
公募期間
- ▶ 9月10日(土)～9月26日(月)  
書類審査、一次審査会
- ▶ 10月3日(月)  
二次審査会(オンライン面談)
- ▶ 10月26日(土)  
交流ミーティング(贈呈式、活動報告等)開催

### 3 審査委員会

- <審査委員長> ● 上野千鶴子氏 …… 東京大学名誉教授 / 認定NPO法人ウィメンズ・アクション・ネットワーク理事長
- <審査委員> ● 白井智子氏 …… NPO法人新公益連盟代表理事
- 土井香苗氏 …… 国際人権NGOヒューマン・ライツ・ウォッチ日本代表 (※2022年度~)
  - 浜田敬子氏 …… ジャーナリスト/元AERA編集長/前Business Insider Japan統括編集長

## 2 基金の意義、審査のポイントについて (審査委員長 上野千鶴子氏)

審査委員長

上野千鶴子氏

(東京大学名誉教授 / 認定NPO法人ウィメンズ・アクション・ネットワーク理事長)



今年の選考結果に驚かれた方も多だろう。いっきよに9人も!

昨年初年度に応募者137人、受賞者5人、それも事務局がうれしい悲鳴を上げ、選考委員が迷いに迷っての選択だった。これほどのひとたちがどこにいたのか、と思うほどの手応えだった。

2年目の今年は応募が99人となったが、昨年異常にパワフルな人たちが集まった。

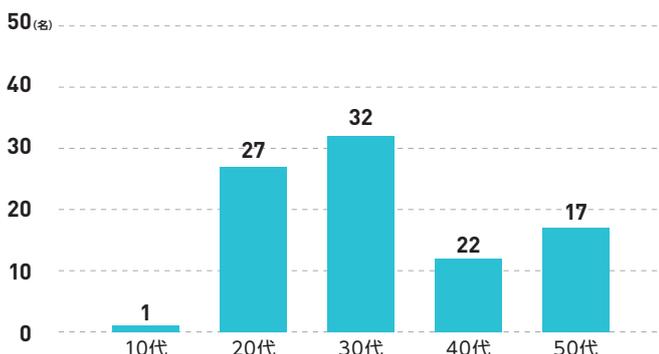
昨年の選考結果に力を得て、応募にはずみが見ついたのだろう。そのなかから選ぶのはたのしくも苦しい過程だった。幸いに寄附者のご意向があって、はずみをつけようといっきに9人の方を選考することができた。いずれ劣らぬリーダーシップのある方たちばかり、日本の女のパワーを感じる。今回選考もれた方たちもけっしてひげをとるような人たちではない。この調子で毎年受賞者が増えていくわけではない。当初のプロジェクトは3年計画、これが続くかどうかは、資金源にかかっている。クラウドファンディングも始まっている。送られる側だけではなく、送り出す側にもなってほしい。女性が女性の応援をする…あなたも応援団になってほしい。

## 3 2022年度 応募状況・選考過程・審査結果

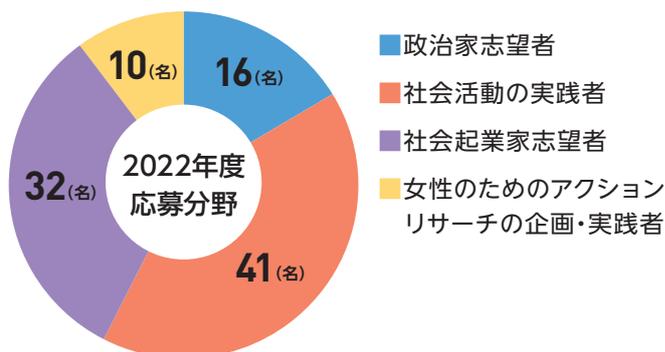
### 1 応募状況

● 総応募数99名

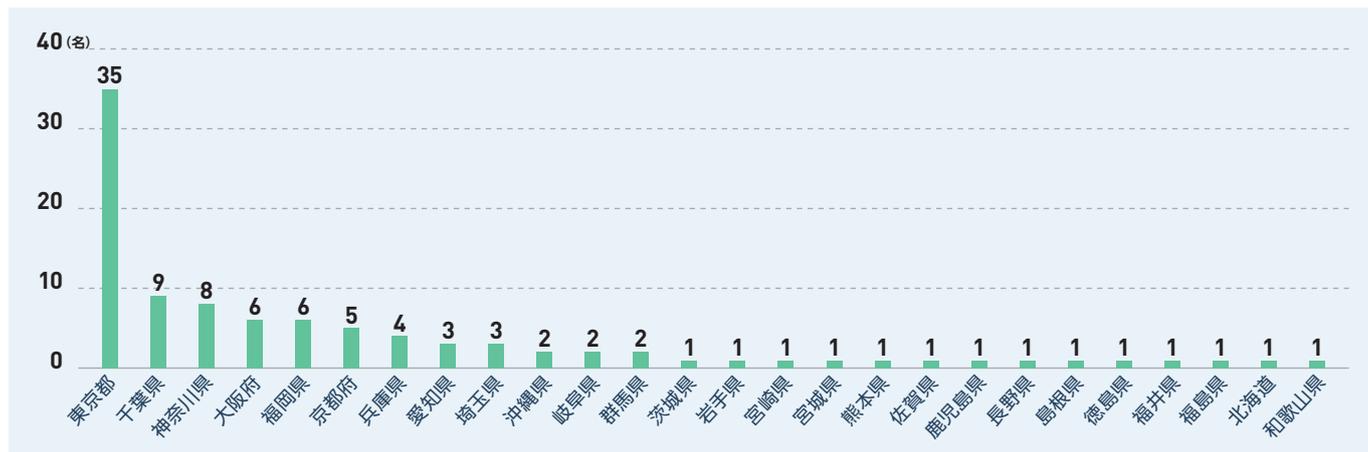
▶ 応募者年代別 [最年少19歳 / 最年長57歳]



▶ 応募分野



## ▶活動エリア



## 2 選考過程

### ▶一次審査(書類選考)

事務局スクリーニングによる38人(31人合格、7人次点)の通過者に対し、審査委員会4名にて書類選考を実施。

13名を選定した。

### ▶二次審査(オンライン面談)

13名の書類選考通過者に対し、オンラインでの面接を下記の通り開催した。

- 日時: 2022年10月3日(月) 9:00~14:00
- 出席者: 審査委員会4名、事務局3名
- 概要: 一人あたり、自己紹介1分+質疑応答10~15分の面接。質疑応答では応募者と審査委員との間で活発な意見交換が行われた。

## 3 選考で重視した点

選考基準に従って、以下の要素を踏まえて提出された作文を元に選考を実施した。

- 日本の女性の社会的地位に関する分析
- 自身が活動しようと志望している分野について
- 自己分析、自己PR

## 4 審査結果

2022年度は99名の応募者から9名の支援対象者を選出した。

### ● 支援対象者(50音順)

氏名	所属	役職	応募分野
井田 奈穂	選択的夫婦別姓・全国陳情アクション	事務局長	社会起業家
風間 暁	一般社団法人スワローポケット	代表理事	社会活動の実践
河野 恵美子	大阪医科薬科大学一般・消化器外科	助教	社会活動の実践
仲本 千津	株式会社RICCI EVERYDAY	代表取締役	社会起業家
那須野 あやか	株式会社マチノタネ	代表取締役	政治家志望
咸 多栄	bgrass株式会社	代表取締役	社会起業家
福田 和子	#なんでないの プロジェクト		社会活動の実践
町田 彩夏	一般社団法人 パリテ・アカデミー	シニア・トレーナー	政治家志望
森崎 めぐみ	一般社団法人日本芸能従事者協会	代表理事	社会活動の実践

※那須野あやか氏は、2022年10月14日より選挙活動を開始されたため、同日をもって支援を終了しました。

# 4

## 2021年度 支援対象者による活動報告

2021年度は137名の応募者から5名の支援対象者を選出した。以下活動状況を報告する。



### ウィム サクラ

Plusbase inc.

共同代表/Co-CEO/Founder  
<https://plusbase.studio.site/>

#### ■プロフィール

新人看護師時代に、心と体のバランスを崩す挫折を経験。その後、心療内科にて働く人のこころのサポートをする傍ら、“命を守る人々の「こころ」を守る仕組み”が遅れていることを課題に感じPlusbase inc.を設立。現在、原体験をもとにした看護師向けメンタルサポートサービス『Ns.be (ナースビー)』をリリース中。

#### ■活動支援金の活用状況について

今年11月にリリースした、LINE上でできる看護師向けメンタルサポートサービス『Ns.be (ナースビー)』の特に心のセルフモニタリング機能の研究開発として活用。

#### ■現在のご活動の状況と、今後の展望

私たちはメンタルサポートサービス『Ns.be (ナースビー)』を通して、命を守る看護師の「こころ」を守る仕組みを届け、メンタル不調を防ぐとともに、生き生きと働けるようエンパワーメントしていきます。また、業界構造上まだまだ男性優位な医療業界の中で、看護師の9割は女性であるからこそ、1人の女性リーダーとしてまずは看護業界にイノベーションを起こすことで一石を投じたいです。そして「女性だから」「外国籍だから」「看護師だから」とカテゴライズされずに、正当に評価が得られ、背中を押してもらえ、環境や世界に今は変わってきているのだ、ということも証明していきたいです。今後とも、ぜひ応援をよろしくお願いたします。

#### 活動報告サイト

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOFE081IH0Y1A201C2000000/>  
<https://www.nippon.com/ja/japan-topics/e00195/>



### 齋藤 明日美

特定非営利活動法人Waffle  
共同創業者

<https://waffle-waffle.org/>

#### ■プロフィール

1990年東京都生まれ。アリゾナ大学修士卒。データサイエンティストとして外資IT企業・AIスタートアップを経て、IT業界のジェンダーギャップを是正すべくWaffleを立ち上げ。2020年Forbes JAPAN誌「世界を変える30歳未満30人」受賞。日本ロレアル「女性のエンパワーメント・アドバイザリー・ボード」設立メンバー。

#### ■活動支援金の活用状況について

Waffleでは今年、地方の学生に機会を届ける1dayコーディング講座「Waffle Camp」を7都府県に、3ヶ月間で社会課題を解決するモバイルアプリを開発し、国際的な大会に出場する「Technovation Girls」を120名に、そして文系大学生向けIT講座「Waffle College」を80名の学生に届けることができました。活動支援金は、これらのインパクトのために有意義に活用させていただきましました。誠にありがとうございます。

#### ■現在のご活動の状況と、今後の展望

Waffleは、最近ではありがたいことに多数の講演や政策提言の場に呼んでいただけるようになりました。今後は事業の拡大とともに、社会のリーダー層への提言に力をいれるとともに、Waffleのように女子理工系支援をしていく団体・大学へのサポートも行うなど、IT系ジェンダーギャップ解消という分野を率いていく存在として活動を広げて行けたらと考えております。引き続きご支援賜りたく存じます。

#### 活動報告サイト

[https://waffle-waffle.org/wp-content/uploads/2022/10/TG2022-Japan-Region-Report\\_final-1.pdf](https://waffle-waffle.org/wp-content/uploads/2022/10/TG2022-Japan-Region-Report_final-1.pdf)



### 能條 桃子

一般社団法人NO YOUTH NO JAPAN  
一般社団法人NewScene  
代表理事

<https://fiftysproject.com/>

#### ■プロフィール

2019年7月参議院選挙でInstagramメディアNO YOUTH NO JAPANを開設し2週間で1.5万人のフォロワーを集める(現在10万人)。気候変動とジェンダー平等に強く問題意識を持ち、若者、女性の政治参加に取り組んでいる。

#### ■活動支援金の活用状況について

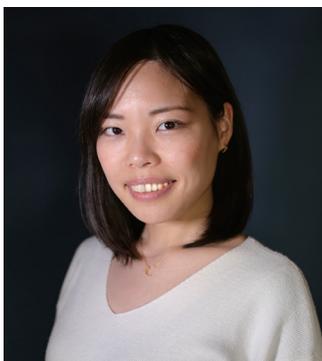
これまで投票やそれ以外の政治参加の促進の活動をNO YOUTH NO JAPANを通じて行ってきましたが、「立候補」という直接的な手段に出る人が増える必要があると考え、来年の統一地方選挙に向けて20代・30代の女性・ジェンダーマイノリティの立候補を呼びかけ、一緒に支援するコミュニティFIFTYS PROJECTを立ち上げました。支援金はこの活動のために2022年8月一般社団法人NewSceneを設立した際の活動の最初の設立準備費用およびスタッフの件費などに充てさせていただきました。当初デンマークに視察、留学する予定でしたが、日本での活動に夢中になっている間に1年が経ってしまいました。今後、どこかのタイミングで海外視察、留学に残りの支援金は利用させていただきたいと考えております。

#### ■現在のご活動の状況と、今後の展望

若年層ほど男女平等が当たり前の意識として持っている人が多いと思いますし、関心も高い。なのに、地方議員の年代別男女比率を見てみれば、20代・30代の女性比率は2割以下と他の世代と比べて大きな変化は見られない。世代交代による変化が期待できないなら、自分たちでつくっていくしかない。「私たちの世代で政治分野のジェンダーギャップ解消を」と掲げてFIFTYS PROJECTを始めた背景はこんな想いにあります。一朝一夕には解決しませんが、「男女平等への長い列」に私も加わって、日本で政治の女性リーダーを育てる素地をつくりたいです。まずは来年の統一地方選に向けて、頑張ります！

#### 活動報告サイト

[https://note.com/fiftys\\_project/n/n86033c315dcc](https://note.com/fiftys_project/n/n86033c315dcc)



## 濱田 真里

Stand by Women

代表

<https://standbywomen.mystrikingly.com/>

### ■プロフィール

お茶の水女子大学にて女性議員に対するオンライン・ハラスメント研究を行い、卒業後、研究内容を活かして2021年に女性議員・候補者のサポート団体「Stand by Women」を設立。子育てしながらの選挙で勝つための情報共有や連帯するためのコミュニティ「こそだて選挙ハック!プロジェクト」共同代表も務める。

### ■活動支援金の活用状況について

支援金は、主に2つのことに利用しています。1つ目がStand by Womenで行う様々な調査の必要経費としての利用です。現在、子育て中の候補者に対するヒアリング調査や、議員に対するハラスメント調査などを実施中です。これらの調査にかかる必要経費や、調査をまとめて出版するために必要な書籍の購入にあてています。2つ目が候補者や議員の方に対する無償での相談体制の実施です。現在7人の議員に対する複数人のチーム体制による長期サポート（選挙期間外も継続してサポート）を行っています。また、それ以外にも3名の候補者・議員に対する個別サポートを濱田が行っています（様々な理由により、チームでのサポートが難しい場合ため）。約30名のメンバーでこれらのサポートを行っていますが、すべてのサポートは無償で行われています。

### ■現在のご活動の状況と、今後の展望

2022年にも関わらず、日本では意思決定層の女性の数があまりにも少ない現状があります。特に政治分野の男女格差が大きく、この背景には、家庭内のケア役割が女性に集中し、政治家が24時間勤務の男性モデルであること、メディアや有権者の持つバイアスや、ハラスメントを受ける状況等があります。こういった状況を少しでも変えて一人でも多くの女性議員を誕生させるためには、政治分野における女性たちの活動環境を改善する必要があると考え、女性候補者・議員のサポート団体をStand by Womenを立ち上げました。私の研究では女性議員に対するハラスメントを扱っていますが、議員の世界ではハラスメントが横行しています。内閣府の調査では、選挙活動や議員活動中に有権者や支援者などからハラスメントを受けた人は女性57.6%、男性32.5%と、男女差が大きいです。女性にとってより高く立ちふさがる壁とも言えます。こういった状況を変えるために、私は研究者が少ない女性候補者・議員に対するハラスメントという分野での研究を行い、その結果をサポート活動という形で実践し、女性議員の活動環境の改善に貢献していきます。

活動報告サイト | <https://standbywomen.mystrikingly.com>



## 吉岡 マコ

特定非営利活動法人

シングルマザーズシスターフッド

代表理事

<https://www.singlemomssisterhood.org/>

### ■プロフィール

2020年4月パンデミックをきっかけにオンラインのセルフケア講座をシングルマザー向けに開発。大学で学んだ身体論や運動生理学、学外で学んださまざまなエンパワメントの手法を活かし、1998年の出産をきっかけに産前・産後の支援活動（NPO法人マドレボニータ）を22年続け、2020年に次世代に事業承継した。

### ■活動支援金の活用状況について

「シングルマザーのセルフケア講座」の次のステップにあたる「表現による自己の回復プログラム」「グループリフレクション」を導入しました。「セルフケア講座」は心身の健康のケアが後回しになりがちなシングルマザーに、30分だけ自分のために時間をとってセルフケアをしようというオンライン講座です。次のステップにあたる「表現による自己の回復プログラム」は当事者がエッセイを執筆して発表し、寄付を呼びかけるというもので、自己回復とファンレイジング、この二つを同時に叶えるこの仕組みは、受益者が支援する側にもなれるというパラダイムシフトが起きる画期的なプログラムだと自負しています。体験をエッセイにして物語ることで、表現による自己の回復という効果があり、一方、社会に対しては、メディアによって作られたひとり親像とは違った一人ひとりの多様性があるということを啓発しています。「グループリフレクション」は、2週間に1回60分、3~4人のグループで集まり、記入してきたシートにそって、2週間の振り返りと、次の2週間で頑張りたいことの宣言をし、仲間からフィードバックを得ます。非常にパワフルなピアサポートの場となっています。

### ■現在のご活動の状況と、今後の展望

シングルマザーのセルフケア講座を続けてきて、ひとり親のウェルビーイングの向上を目指してきましたが、それだけでは足りないことがわかりました。「セルフケア講座」はあくまでも「今が良くなる」という性質を持ったものです。スマホ一台あれば気軽に参加でき、参加して体や心を整えると、一時的には気分はよくなります。しかし、その効果はそんなに長くは続きません。さらに本質的な「感情」「対人関係」「お金のこと」などを整えていないと、「未来」は変わりません。そこで、こうした本質的なことを学ぶ講座も、セルフケア講座に追加して用意してきました。「今が良くなる」から「未来が良くなる」のステップです。実はもう一つのステップがあります。セルフケア、学びのステップで付けた力を主体的に発揮する機会として「貢献」という機会です。これによって自分の小さなアクションによって「社会が良くなる」ことを実感します。セルフケア→学び→貢献というステップを踏むことで、困難を抱えるシングルマザーが、逆境を糧に、仲間と励まし合いながら人生を切り開いていくことに伴走していくという我々の支援のあり方をさらに実践していきたいと思えます。

活動報告サイト | <https://sisterhoodandselfcare.org/>

# 5

## 基金の活動報告

### 1 女性リーダー勉強会

女性リーダーを目指す支援対象者、基金応募者、そして寄付者の皆様を対象とした「勉強会」を定期的を開催。講師は基金に賛同をいただいているアンバサダーの皆様、各分野で活躍されているリーダーの皆様お招きし、様々なテーマから女性リーダーになるための学びをサポートしている。

※役職は開催当時のものとなります。

<2022年>

第1回 [2/24]

**國井修氏** (グローバルファンド (世界エイズ・結核・マラリア対策基金) 戦略・投資・効果局長)  
テーマ: 次世代女性リーダーとして、グローバルな視点から聞いてみたいテーマに応える講義

第2回 [3/24]

**上野千鶴子氏** (東京大学名誉教授)  
テーマ: ベンチャーとしての女性学～道なき道の歩み方]

第3回 [3/29]

**及川美紀氏** (株式会社ポーラ 代表取締役社長)  
テーマ: 「自分史」をかたる

第4回 [7/12]

**荻上チキ氏** (評論家、社会調査支援機構チキラボ所長)  
テーマ: 社会課題解決につなげる調査×広報

第5回 [7/26]

**佐藤大吾氏** (NPO法人ドットジェイピー理事長)  
テーマ: NPOにおけるファンドレイジング入門

第6回 [8/19]

**古田大輔氏** (ジャーナリスト/メディアコラボ代表)  
テーマ: 情報の見極め方講座

第7回 [9/27]

**渡辺由美子氏** (NPO法人キッズドア理事長)  
テーマ: キッズドアの軌跡と女性リーダーとしての戦い方

第8回 [11/2]

**浜田敬子氏** (ジャーナリスト/元AERA編集長/前Business Insider Japan統括編集長)  
テーマ: なぜ女性リーダーが増えなかったのか ～ジェンダーの失われた30年を取り戻す～

## 2 交流ミーティング

支援対象者が相互に学び、交流するための「交流ミーティング」を開催。支援対象者より活動成果に関するプレゼンテーションをしていただくとともに、討議を行うなど、女性リーダーを目指す者同士の、横のつながりを形成し、相互学習（ピア・ラーニング）の機会を設ける。

### 第1回

- 日程：2022年11月26日（土） 13:00～15:00
- 会場：インフォバングroup本社イベントスペース ※オンライン配信有
- 内容：2021年度支援対象者活動報告、2022年度支援対象者贈呈式、トークセッション等

## 3 メンター制度

支援対象者に対してメンター制度を創設。メンターは基金アンバサダーや外部有識者をお願いし、対話を通じて支援対象者の成長やビジョンの実現をサポートする。

▶ 2021年度支援対象者 実施期間 2022年6月～2023年3月まで

能條桃子氏 × 小安美和氏（株式会社Will Lab代表取締役、基金アンバサダー）

能條さん>自身の団体に上司がいない環境で、いつも模索している状態。10年後20年後に継続できているのか？という不安に対して、客観的にリーダーである先輩方にいろいろ教えてもらえることは嬉しい。自分から申し出るきっかけもなく、声をかけるという発想もなかったため、このような機会はありがたい。

濱田真里氏 × 白井智子氏（NPO法人新公益連盟代表理事、審査委員）

濱田さん>個人では直接アクセスできない方々と、基金を通じてマッチングしてもらえることに感謝。自分より多くの経験されている方々に、自分には見えていない視点でアドバイスをもらえること、今の団体のフェーズに対して何が出来るのか相談できることに期待。

## 4 広報・PR

当基金は「日本における意思決定過程への女性の一層の参画を通じ、女性の社会的地位の向上を図る」ことを目指して活動を行っている。この目的に賛同してくださる方を増やすため、広報PR活動を実施している。

### 調査の実施

▶ 「女性政治家」「女性候補者」が増えることの社会的影響に関する調査報告

（調査委託先：社会調査支援機構 チキラボ）

女性政治家や女性候補者を増やすことの重要性が、各所で指摘されるようになった。社会心理などの分野では、少数者のロールモデルが存在することや、クリティカルマス（一定以上の当事者の参加）が達成されることにより、ポジティブな効果があることはすでに指摘されている。では、女性政治家や女性候補者が増えることそのものは、どのような社会的影響を与えるのか。この問いに対して参考となる先行研究を探った。

## 公募記者会見の開催

### ▶ 登壇者

- 調査報告……………社会調査支援機構チキラボ 代表 荻上チキ氏
- 参院選の振り返り…審査委員長:上野千鶴子氏/審査委員:浜田敬子氏/2021年度支援対象者:濱田真里、能條桃子/  
事務局:岸本幸子

### ▶ 記者会見、調査報告

YouTubeアーカイブ(約50分) <https://youtu.be/GiiuF2EuCm4>

## 広報活動

WEBや紙媒体を利用し、積極的に情報公開を行った。

### <WEB>

- 基金WEBサイト……………<https://www.info.public.or.jp/support-women-leaders>
- 基金Facebook……………<https://www.facebook.com/support.women.leaders>
- YouTubeチャンネル……………<https://www.youtube.com/channel/UCYU4YJtBxrd1XAVqbK0xKpQ>
- プレスリリース……………<https://prtmes.jp/main/html/rd/p/000000042.000071273.html> ※他多数
- CANPAN FIELDS……………<https://fields.canpan.info/grant/detail/1691>

### <紙媒体>

- 朝日新聞[2022年3月31日]……………天声人語横広告掲載
- 朝日新聞[2022年7月21日]……………記事掲載
- 文藝春秋[2022年5月発売号]…… コラム掲載

### <他>

- 公募説明会(オンライン)の実施
- 基金アンバサダー、および審査委員へ情報拡散の依頼
- 各政治塾から、生徒やOBの皆様へ情報提供依頼
- 全国のNPOセンター、女性会館への連絡
- パブリックリソース財団のメールマガジン、Facebookから呼びかけ

## 5 クラウドファンディング

女性の社会的地位を向上させるためには、ひとりでも多くの女性リーダーや候補者を支援する必要がある。創設者からの寄付による成果をさらに最大化させるために、そして継続的に女性リーダーを育成・輩出していけるように、資金はもちろん当基金を応援したくださる方を獲得することを目的にクラウドファンディングに挑戦した。

- 開催期間:2022年4/11~5/31
- クラウドファンディングサイト:<https://readyfor.jp/projects/support-women-leaders>
- 寄付金総額:1,190,000円 支援人数43名
- リターン例:寄付のみ、勉強会やイベント参加権、受賞者と交流会参加、ポーラメイクレッスン権など

## 6

## 基金アンバサダーのご紹介

※敬称略・50音順・2022年度現在

お名前	ご所属
赤司 展子	札幌新陽高校 校長
芥田 真理子	JANPIA 広報部長
池田 裕美枝	京都大学 産婦人科医
石田 たえこ	経営者
伊藤 羊一	武蔵野大学 アントレプレナーシップ学部長
今田 素子	インフォバングループ 代表取締役CEO
鶴尾 雅隆	日本ファンドレイジング協会 代表理事
馬越 裕子	コモンズ投信
及川 美紀	株式会社ポーラ 代表取締役社長
大崎 麻子	特定非営利活動法人 Gender Action Platform 理事
太田 達男	公益財団法人法益法人協会 会長
岡野 貞彦	公益社団法人経済同友会 常務理事・事務局長
加藤 剛	JANPIA
岸田 花子	フジテレビ 解説委員
國井 修	GHIT CEO
黒田 由貴子	株式会社ピープルフォーカス・コンサルティング 取締役・ファウンダー
黒部 えり	フリーライター
小出 寛子	三菱電機 社外取締役
甲田 恵子	株式会社AsMama 代表取締役
後藤 千絵	一般社団法人サステイナブル・サポート 代表理事
Nobuko Kobayashi	EYストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社 パートナー
小林 陽子	弁護士
小安 美和	株式会社Will Lab 代表取締役
坂野 尚子	株式会社ネイルクイック 代表取締役社長
笹原 明代	読売新聞
澁澤 健	シブサワ・アンド・カンパニー 代表取締役

お名前	ご所属
志村 真介	一般社団法人ダイアログ・ジャパン・ソサエティ 代表理事
白河 桃子	ジャーナリスト
新町 真弓	講談社 Frau編集長
鈴木 款	フジテレビ 解説委員
園田 綾子	クレアン 代表取締役社長
大門 小百合	ジャーナリスト
津山 恵子	ジャーナリスト
寺尾 のぞみ	MISTERIO 代表取締役
新出 美紀	ドレスアンレーヴ 代表取締役社長
荻原 なつ子	立教大学教授 認定NPO法人日本NPOセンター 代表理事
荻原 英人	ピースマインド株式会社 代表取締役社長
原 ゆかり	
半沢 菊花	
藤沢 烈	RCF 代表理事
藤沢 久美	株式会社国際社会経済研究所 理事長
松丸 佳穂	Room to Read Japan 事務局長
三島 理恵	
三輪 麻衣	
宮嶋 みぎわ	作曲家、プロデューサー、ピアニスト
安淵 聖司	アクサ生命保険株式会社 代表取締役社長
山田 玲子	料理研究者
山中 礼二	グロービス経営大学院
若林 直子	ソーシャルピーアール・パートナーズ株式会社
渡邊 さやか	一般社団法人reterra 代表理事
渡辺 由美子	認定NPO法人キッズドア 理事長

# 7

## 基金設立者石川清子様からのメッセージ

### “女性の社会的地位の向上”への思い

石川清子

私の寄附がこれほど大きな反響を呼び、うねりとなって、私に思いもよらぬ喜びをもたらしてくれるとは、全く想像できませんでした。しかしそれは多くの人達のこうした問題への関心の強さを示す証でもあり、そのことにも大変勇気付けられました。

以前から私は“女性の社会的地位”ということに強い関心を抱いていました。そのために何か出来ることはないか常日頃考えてはいました。この寄附は偶然でも突然でもありません。以前から考えていたことではありました。

少し前でしたか、アイスランドの議会選で女性議員が定数の48%を占めて過半数に迫ったと新聞で報じていました。アイスランドは男女平等の進んでいる国として知られています。ですが、それでさえ、こうしたことがニュースになるのが世界の現状です。世界を見れば女性の首相も少数ではあるものの存在します。

しかし私達はこうしたことを自然の流れの中での当然の1事例にすぎないと捉えているのでしょうか。世界の人口の約半分が女性であることを考えれば女性議員が半分いて普通、そうした中で女性の首相が生まれて当然と考える人がどれだけいるでしょうか。私はこの女性差別、女性蔑視の問題はそれほど簡単なことではないと考えています。それは長い長い歴史を経て、私達の中に自然に違和感なく入り込んでしまっている、いわば構造的な問題だからです。

学校に入学し団体で行動することになった時、まずは男子、次に女子というごく自然な流れ。教室においての名簿、何故か男子から始まり女子で終わるアイウエオ順。

またある例ですが、ある女性誌で“女と男”という特集を組んだ時のこと、印刷所から返ってきた校正ゲラは題字も含め文中の引用句すべて1つ残らず“男と女”に書き直されていたというのです。間違いと認識したらしいとのこと。

又、最近では、ある作家(女)が“女尊男卑”の社会を描くにつき“女男”と書くのに慣れず何度も変換ミスをくり返してしまったという話の後に、“男女”の並び順はほんとうにすり込まれてしまっていますねと語っていました。

もう一つ。ある小学校で小学生に問題提起をしたわけでもなく、ただ単にどちらが偉いかとの質問に対して、大半の生徒が“男”と答えたといえます。

これらはすべて意識の外で起っています。こうした構造的な問題は根が深く一朝一夕には解決できるものではありません。

まずは一步一步“女性の社会的地位の向上”を計るしかありません。そのための女性リーダーを早急に、しかし着実に育てるべきだと考えています。

副題に“一粒の麦”と付けました。“一粒の麦”とはご存知の如く聖書の中のキリストのことですが、非常に良い一節なので、折に触れ多く引用されてきました。私はキリスト教信者ではありませんが、今の私にはこの言葉が深く心に響きます。“一粒の麦、地に落ちて死なばただ一つにてあらん。死なば多くの実を結ぶべし”。私の寄附への思いはやがて多くの実を結び、またその実は次々と豊かな次の実のりへと繋がっていく……。これから活動に携わる方々への思いを込め、夢が広がっていきます。

若い皆さん方に期待しています。“ガラスの天井”をつき抜け、思いを貫いてほしいと思います。

最後に私の思いにピッタリ寄添った活動を先導して下さった岸本さん、またそれを支えて下さったパブリックリソース財団の方々、上野千鶴子さんはじめ選考委員の方々並びにこうした活動に協力を惜しまず携って下さった方々に深く感謝いたします。

2022年11月改

# 8

## 2022年度 支援対象者のご紹介



**井田 奈穂** (いだ なほ)

選択的夫婦別姓・全国陳情アクション  
事務局長

<https://chinjyo-action.com/>

### プロフィール

IT業界で働く傍ら、全国の地方議会から国会へ選択的夫婦別姓推進の意見書を送る活動に取り組む(10月末現在357件)。2021年には主要8党で国会議員向け勉強会を実施。メンバー登録者数約700名。

### 支援を通じて成し遂げたいこと

ジェンダー平等を推進する一般社団法人を立ち上げ、まず選択的夫婦別姓の法制化を達成します。また経済団体と連携した政策提言、企業向けジェンダーバイアスチェック、一般・学校向け教育事業などにも取り組みます。

### メッセージ

「一人ひとりに、性別問わず平等な権利を取り戻す」私たちのアクションへの応援、感謝申し上げます。ボトルネックを可視化し、足かせとなるジェンダーバイアスや旧弊なルールを一緒に変えていきましょう。



**風間 暁** (かざま あかつき)

一般社団法人スワローポケット  
代表理事

<https://swallowpocket.net/>

### プロフィール

虐待を受け、加害者家族として肩身の狭い思いをしながら、非行少女として過ごした10代。トラウマや薬物依存症と向き合いながら生き抜いてきた当事者ならではの視点を生かし、現在はロビー活動や有識者会議への参加等を中心に、保護司としても活動しています。

### 支援を通じて成し遂げたいこと

当事者の声を政策決定のプロセスに組み込むことを当たり前にしたい。誰もが安心して声をあげられる社会構造に変えていきたい。

### メッセージ

スティグマの根強いラベルばかり貼られた私を、こうして応援してくださる意味と皆さまの存在を噛み締めています。感謝してもしきれません。変革をもってお返しできるよう精進して参ります。ありがとうございます。



**河野 恵美子** (こうの えみこ)

大阪医科薬科大学一般・消化器外科  
助教

<https://www.ompu.ac.jp/u-deps/sur/>

### プロフィール

2008年より外科分野におけるジェンダー平等と女性のエンパワメントの実現を目指し活動を開始。2011年「外科医の手プロジェクト」を立ち上げ、2015年2名の女性外科医と消化器外科女性医師の活躍を応援する会を設立。2020年に内閣府男女共同参画局「令和2年度女性のチャレンジ賞」を受賞。

### 支援を通じて成し遂げたいこと

専業主婦をもつ男性を基準とした「24時間365日働くのが外科医」という古典的な考えから脱却し、性別に関係なくひとりひとりが尊重され、外科をやりたいと思ったら当たり前挑戦し、活躍できる社会にしたい。

### メッセージ

日本の外科診療は危機的状況で、その救世主は女性であるということを知っている国民・政治家に知っていただき、一緒に改革を行う必要があります。ご支援のほど宜しくお願い申し上げます。



**仲本 千津** (なかもと ちづ)

株式会社RICCI EVERYDAY  
代表取締役

<https://www.riccieveryday.com/>

## プロフィール

1984年静岡県生まれ。一橋大学大学院卒業後、邦銀で法人営業を経験。その後国際農業NGOに参画し、ウガンダの首都カンパラに駐在。その時に会った女性たちと日本に暮らす母と共に、「RICCI EVERYDAY」を創業。2015年に日本法人、2016年に現地法人を設立。

## 支援を通じて成し遂げたいこと

全国の子供中高校生に向けたリーダーシップ教育を行いたい。彼女たちが社会に出た時にリーダーシップを発揮しながら、時にさまざまなバックグラウンドを持った人々と協力しながら、ありたい姿・社会を実現できるようサポートしたい。

## メッセージ

この度は、私共の活動をご支援いただき、本当にありがとうございます。これまで私自身が得られた知見を、惜しみなく若い世代に還元し、ジェンダーギャップの改善に向け行動に移していきたいと考えています。



**那須野 あやか** (なすの あやか)

株式会社マチノタネ  
代表取締役

[https://twitter.com/aya\\_nasuno](https://twitter.com/aya_nasuno)

## プロフィール

1997年生まれ。神奈川県川崎市出身。幼少期のいじめにより18歳でゴミ拾いを通じた居場所作りを始める。過去に地元にて高校の外部講師や、WEBライター、キャンペーン企画を行う。若者と川崎をつなぐプラットフォームの立ち上げを経て、消防団にも所属。コミュニティ作りによる地域資源の再編集と価値創造に取り組む。

## 支援を通じて成し遂げたいこと

女性の地位向上に理解のある30代以下を増やすことを目的とした地域・政治参加理解向上と地域における女性のライフキャリア選択の提案。

## メッセージ

この度は貴重な機会をいただきましてありがとうございます。性別や年齢、肩書きに関わらず前進できる社会にするためにも時代にあったリーダーシップが取れるよう努めていきます。  
※那須野あやか氏は、2022年10月14日より選挙活動を開始されたため、同日をもって支援を終了しました。



**咸 多栄** (はむ だよん)

bgrass株式会社  
代表取締役

<https://bgrass.co.jp/>

## プロフィール

bgrass株式会社代表取締役。韓国生まれ日本育ち。新卒からIT業界に入り、エンジニアとして開発に携わる。2022年にbgrass株式会社を設立。IT業界で働く女性のための相談支援プラットフォーム『sister』を運営する傍ら、エンジニアとしても活動中。

## 支援を通じて成し遂げたいこと

誰もがバイアスに囚われず「なりたい」を解放できる世界を目指しています。まずは、IT業界のジェンダーギャップ解消を目指します。

## メッセージ

この度はご支援いただきありがとうございます。ジェンダーギャップ解消のために全力で頑張ります。また、次の誰かにつながるような活動をして行きたいと考えています！



**福田 和子** (ふくだ かずこ)  
#なんでないの プロジェクト  
<https://www.nandenaino.com/>

### プロフィール

大学時代、スウェーデンへの留学中に日本での避妊法の選択肢や性教育の不足を痛感し、帰国後SRHR実現を目指す「#なんでないのプロジェクト」を開始。2021年スウェーデンヨーテボリ大学大学院公衆衛生修士号取得の後、国連人口基金ルワンダ事務所に勤務、現在東京を拠点に活動中。「東大で性教育を学ぶゼミ」講師。

### 支援を通じて成し遂げたいこと

誰もが自分のからだは自分のもので、自分で決められると実感を持てる社会、すなわちSRHRの実現を目指します。そのために、私自身経験と学を積みながら、SRHRにコレクティブに声を上げる文化を作りたいです。

### メッセージ

この度は有難うございます。恥、我儘と置き去りにされてきた性、SRHRの課題に取り組む私を選出下さったことに大きな希望を感じます。その希望を、私自身活動を通し多くの人に届けられるよう、精一杯頑張ります！



**町田 彩夏** (まちだ あやか)  
一般社団法人 パリテ・アカデミー  
シニア・トレーナー  
<http://parity-academy.org/>

### プロフィール

1995年生まれ。10代より18歳選挙権実現運動や女子高校生が社会問題を議論する「女子高校生未来会議」発起人として社会運動に携わる。2015年、講談社主催の多様なロールモデルを発掘する「ミスiD」に参加、選考委員個人賞を受賞したことで「政治アイドル」としての活動を開始。近年の活動に「みんなの未来を選ぶためのチェックリスト」などがある。

### 支援を通じて成し遂げたいこと

女性が政治の世界でリーダーシップを発揮することが当たり前前の社会をつくりたいと考えています。そのために、同じ方向をみつめるみなさんとともに、前に進んで行きたいと思います。

### メッセージ

社会運動に携わることで諦めてきたことや手に入れられなかったものがある中で、自分の人生とその選択に迷ったこともありましたが、今回の結果を受けて今までの10年間でようやく肯定できた気がします。ここからもう一度、頑張ります。



**森崎 めぐみ** (もりさき めぐみ)  
一般社団法人日本芸能従事者協会  
代表理事  
<https://artswokers.jp/>

### プロフィール

俳優/日本芸能従事者協会代表理事/全国芸能従事者労災保険センター理事長  
芸能界にも社会保障が必要と労災保険の適用を政府に要請し、制度改正に至る。安全で安心な芸能活動を啓蒙しつつ、これからのフリーランス社会で重要な位置にある、芸能従事者の地位を、グローバル水準に確立すべく、シンクタンク活動を推し進める。

### 支援を通じて成し遂げたいこと

諸外国の軌跡を学びながら、芸能業界のさまざまな課題(ハラスメント、労働災害、安全衛生、長時間労働、誹謗中傷など)の改善を目指し、快適で明るくて健全な、次世代の方々が夢を実現できる業界に近づきたい。

### メッセージ

面接で審査員の皆様とお話しできただけでも嬉しく思っていました。まだ実感がわかりませんが、女性リーダーにふさわしい人間になれるよう、精進して参りますので、引き続き背中を押していただければ大変幸いです。

# 基金では皆様からのご寄付を受け付けております。

「女性政治家」「女性起業家」などの女性リーダーを増やしたい！  
日本における女性の地位向上のためのサポートをする  
「女性リーダー支援基金」を応援してください。

## 【オンライン寄付サイト ギブワン】

[https://giveone.net/supporter/project\\_display.html?project\\_id=20204](https://giveone.net/supporter/project_display.html?project_id=20204)



## 【銀行振り込み】

下記より寄付申込書をダウンロードの上、下記までご送付ください。

<https://bit.ly/3DDpmpfC> (コピーしてブラウザのアドレス欄にペーストしてください)

送付先

公益財団法人パブリックリソース財団

[E-mail] support-women-leaders@public.or.jp [Fax] 03-5540-1030

寄付申込書を送付後、寄付申込書に記載の金融機関までお振込みください。

## 【お問い合わせ】

公益財団法人パブリックリソース財団

女性リーダー支援基金事務局 (担当: 渡邊、布川)

〒104-0043 中央区湊2-16-25 202

[E-mail] support-women-leaders@public.or.jp

[ WEB ] <https://www.info.public.or.jp/support-women-leaders>

### 公益財団法人パブリックリソース財団

(<https://www.public.or.jp/>)

2000年に非営利のシンクタンク、NPO法人パブリックリソースセンターとして発足し、NPO など非営利事業体のマネジメント強化、SRI (社会的責任投資) にかかる企業の社会性評価やCSRの推進支援、そしてオンライン寄付をはじめとする寄付推進事業などを展開。2013年1月、これらの成果と蓄積を踏まえ、「誰かの力になりたい」という人びとの志を寄付で実現するために、個人や企業の資金力を社会的事業への投資につなぐ寄付推進の専門組織「公益財団法人パブリックリソース財団」として新たにスタート。「意志ある寄付で社会を変える」ことをミッションに、テーマ基金、オリジナル基金、遺贈など様々な寄付の方法を提供し、人生を豊かにする寄付、未来を切り拓く寄付の仕組みづくりに取り組む。2020年度以降は新型コロナウイルス感染症に対応するため、様々な分野や人を支援する基金を複数創設し、支援を続けている。